

清渓セミナー研修 2019.07.26-27 日本青年館

調査事項 5 「真の地方創生と地方自治」

片山善博（早稲田大学大学院政治学研究科教授）

作成者 保守の会：吉田つとむ

### <概要>

講師の片山善博氏（早稲田大学大学院政治学研究科教授）は、元鳥取県知事で、元自治省出身です。鳥取県知事時代に改革派知事と称され、地方の自立に深い関心を持つ人物です。

そこで、講演のタイトルが「真の地方創生と地方自治」とされた次第です。

今年の参議院選挙で、どの政党においても地方、地方創生に関して語られることが少なかったことに気になさっていました。地方創生が華々しく語られた前回の選挙と様変わりと言うことを述べられました。

以前は、Iターン、Uターンによって人口増を図ることが語られたが、近年はそれを断念し、交流人口の増大という内容に変わっていることを述べられました。人がなぜ戻らないかと言えば、それは地方が地域経済の生産性が低いからで、都市部への流出が止まらなくなってきたという話でした。

そのためには、地方に、収入割合が多い、生産性を上げる、高める事業を地方創生事業が必要だということでした。

そのためには、自ら考え、自ら実践する力が必要だとされ、地方議会改革の役割を論じられました。

手法として、税率変更を提起され、固定資産税を上げ、それができなければ、支出を減らすことしかないとも言われました。

政治教育の課題で、外交などを考えるのではなく、地方自治を課題にするべきであるとされました。



・・・・・・・・・・・・・

<所感>

至極当然の話であるし、では、議会が、議員がどのように判断するべきか、行動するべきかと言うと、ある意味、至難の業と言えましょう。

議会でどのような意見を言ったとしても、それが他の議員に広がらないと目的を達せず、行政は強大な力を持っています。

あくまで、議員の発言が行政を動かすことを生じさせるものとしては、いかにも行政が進めることが成功せず、それを改善させるきっかけづくりを提起する方法に限定されているのではないか、と考えています。

町田市議会は、何度か、議案や予算をつぶした例、修正した例がありますが、行政の多数派工作によって、ほぼ元の原案が復活して成立しています。

自立した議会、議員の存在は、百に一つの世界であるように思えます。とは言え、それを図るのが、議会と議員の存在意義と理解するものです。